

# 平成27年度 一般会計決算 会派の主張(討論)

## 市民満足度を上げる市政に期待

自由民主党市議団 土方 桂

**賛成** 27年度予算は「新たな政策の苗を植える予算」として編成され、これを全職員が意識して27年度を終えたことを評価する。

ハード面では、さくら通りの用途地域の見直し、久米川駅北口周辺の道路整備、鉄道付属街路事業や連続立体交差化事業などの実施により都市基盤整備を進めた。ソフト面では、映画「あん」の関連事業を積極的に発信し、

ローワークの設置でより良い就労活動を支援できたのは関わった職員すべての努力の賜物である。市税徴収に関しては、滞納者に対して早期納税勧奨の充実を図り、滞納が続いた場合には滞納処分を粛々と執行し、収納率を向上させた点は評価する。しかし、収納率が26市平均に届かないことを反省材料として、より一層の改善を望む。

今後も、「住みたいまち、住み続けたいまち」を目指し、すべての市民が満足できる市政運営を期待して賛成する。

## 財政運営は世代間の公平性を重視を

公明党 石橋 光明

**賛成**

市税収率の改善と収納税額の増加は財政運営上極めて重要な施策であり、市税収率は0.3%上がった。これは「市税等収率向上基本方針」に基づく努力の成果と評価する。

市民1人当たりの固定資産税額は、多摩26市中24位である。都の住宅政策に協力している側面から、市町村総合交付金へ相当額を算入するなどの、

低税収補完の施策を都に要請すべきである。プレミアム付商品券発行事業は約7億6000万円に上る大きな経済波及効果をもたらした。防犯カメラ設置費補助金制度の運用開始は、我が会派からの提案もあって具体化されたものと評価する。年間を通じて病児・病後児保育が運営され、子育て環境の整備に大きな役割を果たした。ふるさとハ

ローワークの設置は求職活動の支援策として極めて重要である。劣化の激しい市道の補修整備は今後の取り組みに期待する。道路、河川の維持管理にあたっては、防災の視点の重要性を強く認識していただきたい。一部にある「臨時財政対策債は赤字地方債であり、後年の市民に負債を負わせるもの」との考えは、財政の世代間の公平性を理解していないが故であり、この点は議会のみならず、市民の理解も得るよう努められたい。

## 決算特別委員会委員

委員長 村山 淳子

副委員長 熊木 敏己

委員

島崎よう子	かみまち弓子
おくたに浩一	朝木直子
矢野ほづみ	小林美緒
小町明夫	渡辺英子
横尾孝雄	佐藤まさたか
大塚恵美子	白石えつ子
土方桂	蜂屋健次
石橋博	石橋光明
山口みよ	渡辺みのる
さとう直子	



## 市職員がいきいきと働ける環境を

日本共産党 渡辺みのる

**反対**

本決算では、実質収支を過去最大の15億5900万円余り計上している。

市民の要望に誠実に応えようとしていけば、これほどの決算剰余が発生することはないと考える。市長も答弁の中で「市民要望に応えきれない」とことを認めている。

また、精神的疾患を理由とする長期休職者の多さや、職場内でパワハラや、とされていることなどを見ても、過度な改革や目標管理などにより、職員が縛られ疲弊している、という懸念が拭えない。職員が疲弊して

いては、市民サービスを向上させることは決してできない。

窓口業務や生活保護法施行事務は、委託ではなく市が責任を持って業務にあたるべきである。多摩26市で唯一有料の手話通訳者派遣事業、特別養護老人ホームを増設しない姿勢、利用者が11万人も減少したにもかかわらず収益率が上昇しているコミバスの実態など、市民福祉を向上させる自治体の役割を果たしているとは到底捉えられない。市民の要望が実現し、前進した施策が一部あるが、決算全体においても同様であると考える。

## 市民と「一緒にやる」姿勢を前へ

ともに生きよう！ネットワーク 佐藤まさたか

**賛成**

結果、適切な範囲での赤字決算となり、将来負担を減らした。市民提案型公益活動をはじめ、まちジャムや映画「あん」関連企画へのサポート等、市民と一体で進めた。中学生の広島派遣は継続を期待し、子宮頸がんワクチン接種後の状況調査・公表も評価する。ほっとシティ東村山学習支援、ハローワーク設置によるセーフティネットの整備は、格差拡大の中の支援策となった。図書館のマトニティ読み聞かせ等は、市民との信頼に基づく協働の好事例である。公民館は単に建

物のリニューアルでなく、市民と向き合って創る「人あつての公共施設」という姿勢を評価したい。幼児相談室と教育相談室の統廃合は、当事者にとって後退はないのか注視したい。スクールソーシャルワーカーは福祉職主体への拡充を望む。財政調整基金は目標を維持し、将来の備えも一定作られてきた。今後、創意工夫やいわゆる役割的でない発想が活かされなければ、市民力も市職員の意欲も上がらない。参加と協働を掲げる市政として、縦割りの垣根を越えて「一緒にやる」ことへ本気を見せてほしい。

## 公金横領の調査はしたか？

草の根市民クラブ 朝木 直子

**反対**

①臨時財政対策債を満額借り、「臨時財債は地方交付税の代替財源だ」という答弁に終始し、「返済すべき借金である」という認識がまったくない。②当市の緑地が10年間で36%も失われている現状に対し、効果的な緑地保護政策がない。③多摩湖学会における当市元副議長による不正会計に対し、公

金横領が強く疑われるにもかかわらず、市は真面目に調査をせず、「不正に抜き取られた金員は返金されたので何の問題もない」という態度は、犯罪行為に目をつぶるようなものである。一事が万事、市民の血税である公金管理に対する無責任な態度が明らかとなり、本件決算支出の適正さについては信用できない。

## コミバス高齢者割引の検討を早急に

民進党 かみまち弓子

**賛成**

市税等収率向上基本方針に基づく取り組みは評価するが、多摩26市での市税収率順位は18位から21位に後退した。他市の徴収努力との違いを調査し、早急な対策を実施すること。不随契を減らすため、発注工事内容の精査・改善を行うこと。経済効果20.6倍の住宅修改善費補助金の増額を検討するこ

と。コミバス運行事業は、乗車料金値上げ前と比べ収支率・運行補助金に改善が見られるが、乗車人数は約11万人減少した。高齢者割引の検討を早急に行うこと。小・中学校図書館の蔵書数は文科省標準を目指すこと。全小中学校で1系統のトイレ改修工事が終了したことは評価するが、せめてもう1系統に取り組むこと。

## リスク管理と公正公平な市政を

市民自治の会 島崎よう子

**反対**

公共施設等再生基金の積立は減額しているが、維持管理コストは、今後30年間、毎年10億円が不足すると試算され、職員退職手当の二の舞になりかねない。臨時財政対策債は27年度も限度額いっぱいまで借りており、次世代に

つてをまわす財政手法は認められない。何十年もルール以上に借地料を払っているところがまだまだある。プレミアム付商品券は全世帯の12%しか恩恵にあずかれなかった。コミバスは値上げで乗車人数が減少し、高齢者割引の見直しもない。

